

ナットによる陰茎絞扼症の一例

外間実裕 當山裕一 真志取智子

沖縄赤十字病院 泌尿器科

要旨

症例は48歳、男性。午後5時頃に悪戯のためナットの穴に陰茎を通した後、抜去できず同日午後7時過ぎに当院救急室を受診した。ナットは陰茎根部にあり、それより遠位側の陰茎は軽度浮腫状となり用手的抜去が不可能な状態であった。時間外であり他科の医療器具の確認ができなかったため、消防に連絡したところナットを切断できる器具があることを確認した。救急隊到着後、切断時の陰茎損傷を防ぐために、金属性のヘラを陰茎背側に挿入した。切断部を冷却しながらハイスピードロータリーツールにて慎重に切断した。次いで陰茎腹側にヘラを挿入し同様に切断した。要した時間は1時間15分であった。陰茎皮膚に軽度の火傷様の損傷があったがそれ以外に特に大きな問題はなかった。陰茎絞扼症は有名ではあるが稀な救急疾患である。すべての救急施設に切断に適した器具があるとは限らず救急隊に協力要請することも選択肢の一つと考えられた。

Keywords : 陰茎絞扼症、救急隊

緒言

陰茎絞扼症は比較的稀な疾患である。対処法を間違えると陰茎が壊死することもあるので慎重な対応が必要である。今回、ナットによる陰茎絞扼症を経験したので報告する。

症例

48歳、男性

既往歴

高血圧、肥大型心筋症

現病歴

201×年11月、午後5時頃に悪戯のために陰茎にナットを通したら抜けなくなり午後7時当院救急室



図1. 受診時所見

を受診した。陰茎に自発痛があり、絞扼部より遠位側に陰茎の腫脹が確認された(図1)。診察上、用手的な抜去は不可能な状態と判断した。院内にナットを切断出来る器具がないか検討したが、適切な器具は発見できなかった。消防の救急隊に連絡したところ、ナットを切断できる器具があるとの報告があり、応援を要請した。救急隊が到着後に、両側の陰茎海綿体を18G針で穿刺し脱血を行った。陰茎がわ

(平成30年9月18日受理)

著者連絡先：外間 実裕

(〒902-8588) 沖縄県那覇市与儀1-3-1

沖縄赤十字病院 泌尿器科



図2. ロータリーカッターによる切断

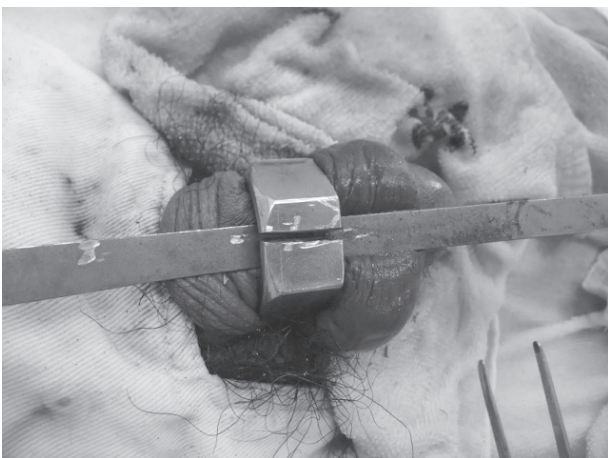


図3. 切断面



図4. 異物除去後

ずかに柔らかくなったので、切断時に陰茎を保護するために、陰茎とナットの間に金属性のヘラを挿入した。救急隊が持参したロータリーカッターにて陰茎背面部のナットを冷却しながら縦軸方向に慎重に切断した(図2、3)。その後、ナットの陰茎腹側に接する部分も同様に切断した。ナットを除去する

と陰茎皮膚に軽度の火傷様所見があったが特に処置が必要な程度ではなかった(図4)。陰茎海綿体穿刺からナット除去まで1時間15分かかった。処置後、600mL導尿したが以後は自排尿可能であった。尿閉の可能性もあり当日は入院としたが翌日特になく退院となった。再診予定していたが、以後は当院を受診していない。

考察

陰茎絞扼症は異物により陰茎が全周性に圧迫され、循環不全から陰茎の浮腫・腫脹を起こし、進行すれば陰茎壊死など重大な合併症を引き起こすことがある¹⁾。この疾患を起こす動機として一番多いのが性的な悪戯で次いで尿失禁治療が多いとされている。また、この疾患は軟性絞扼症と硬性絞扼症の二つに大別できるが、一般的に軟性絞扼症の方が重症化しやすいと言われている。軟性絞扼症の場合、輪ゴムなどが原因となることが多いため、絞扼部分の面積が小さく、血流を阻害する程度が大きく浮腫や潰瘍に埋没し発見が遅れるため、重症化することが多いとされている²⁾。本症例のような硬性絞扼症の場合、絞扼する異物の内径が一定であり、ある程度血流が保たれるので比較的合併症が少ないと考えられているが、その異物の硬度のため除去するのに難渋することが多い。

一般的に硬性絞扼症の絞扼解除の方法として、①String method³⁾、②陰茎の穿刺吸引、③器具による切断、④陰茎の減張切開、⑤陰茎切断があるとされている。どれを優先して使用するというのではなく、それぞれの施設およびそれぞれの症例に応じていずれかを組み合わせて治療することが必要である。本症例では、絞扼時間が短く、外来にて処置を行ったので陰茎の穿刺吸引と器具による切断を選択している。

これまでの日本での硬性絞扼症の報告⁴⁾によると、患者さんは比較的高齢者に多く、絞扼物としては金属が多い傾向である。また絞扼解除に使用した器具は、リングカッターなど比較的容易に使用できるものでは解除不能な事が多く、エアータービンやグラインダーなど動力を必要とするものが多かつ

た。歯科用エアタービンが使用されることが多いようであるが、歯科医以外では扱いになれておらず、機械自体はあっても歯科医不在の場合は使用が難しい。当院では歯科口腔外科があり、歯科用エアタービンはあったが時間外であり、使用することが難しかった。

本症例の場合、患者さんが比較的早めに受診したため、血流障害による陰茎浮腫などの合併症が少なかったことで機械操作を比較的楽に行うことができた。また、器具のみを貸し出されても操作に慣れていなければ操作時間が長くなり、二次的な合併症も起こす可能性も高く、機械の使用になれた消防隊の協力が得られたことが合併症の少ない処置につながったと考えられる⁵⁾。

結語

陰茎絞扼症の1例を経験した。硬性絞扼症の場合、異物を切断することが難しく、院内に適切な器具が

無い場合は消防隊への協力要請も有効な手段と考える。

参考文献

- 1) 後藤修平、他 解除に難渋した陰茎絞扼症の1例、泌尿紀要、61: 177-180, 2015
- 2) 坂本次郎、他：性行為目的に装着した金属リングによる陰茎絞扼症の1例、泌尿器外科、28(7): 1243-1245, 2015
- 3) VESA J.VAHASARJA, et al: Treatment of penile incarceration by the string method:2 case reports, J.Urol, 149: 372-373,1993
- 4) 松下雄登、他：金属性の座金による陰茎絞扼症の1例、泌尿紀要、62: 661-665、2016
- 5) 沖原宏治、他：ロータリーカッターを用いた陰茎絞扼症の1例、泌尿器科外科、15(5): 579-582、2002

